

答案用紙記入上の注意：答案用紙のマーク欄には、正答と判断したものを一つだけマークすること。

YB209

第二級海上無線通信士「無線工学B」試験問題

(参考) 試験問題の図中の抵抗などは、旧図記号を用いて表記しています。

25問 2時間30分

A - 1 次の記述は、自由空間を伝搬する平面波について述べたものである。このうち誤っているものを下の番号から選べ。

- 1 横波である。
- 2 伝搬方向に直角な平面上のあらゆるところで一様な電界及び磁界を持つ。
- 3 光と同じ速さで進み、その速度は真空中の誘電率と導電率によって決まる。
- 4 電界と磁界の大きさの比は、一定である。

A - 2 次の記述は、アンテナの放射抵抗について述べたものである。このうち誤っているものを下の番号から選べ。

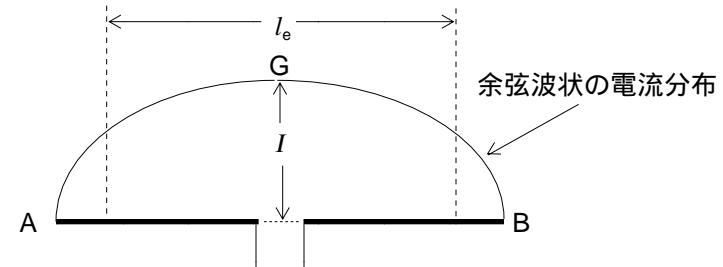
- 1 自由空間に置かれた無損失のアンテナの放射抵抗は、実効長に比例し、利得に反比例する。
- 2 アンテナからの放射電力は、放射抵抗で消費される電力に等しい。
- 3 一般に放射抵抗は、アンテナの入力インピーダンスの抵抗分から導体抵抗などを引いたものとなる。
- 4 半波長ダイポールアンテナの放射抵抗は、約 73 [] である。

A - 3 自由空間において、絶対利得(真数)が 20 、放射電力 50 [W] のアンテナから 15 [km] 離れた点における電界強度の値として、最も近いものを下の番号から選べ。

- 1 5 [mV/m]
- 2 10 [mV/m]
- 3 20 [mV/m]
- 4 30 [mV/m]

A - 4 図に示すように、半波長ダイポールアンテナ上の電流分布が余弦波状に分布し、弓形AGBAの面積が $I\lambda/2$ [Am] で与えられるとき、このアンテナの実効長 l_e [m] を表す式として、正しいものを下の番号から選べ。ただし、波長を λ [m] とし、アンテナ給電点における電流を I [A] とする。

- 1 $l_e = \lambda/2$
- 2 $l_e = \lambda/(2\pi)$
- 3 $l_e = \lambda/(3\pi)$
- 4 $l_e = \lambda/(4\pi)$

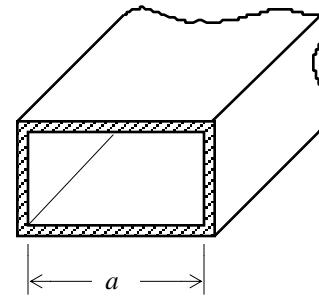


A - 5 無損失給電線上の入射波電圧の実効値が 150 [V] で、電圧定在波比が 1.5 であるとき、反射波電圧の実効値の値として、最も近いものを下の番号から選べ。

- 1 10 [V]
- 2 30 [V]
- 3 50 [V]
- 4 70 [V]

- A - 6 図に示す方形導波管の TE_{10} モードの遮断周波数が 20 [GHz] であるとき、導波管の断面内壁の長辺の寸法 a の値として、最も近いものを下の番号から選べ。

- 1 7.5 [mm]
- 2 10.0 [mm]
- 3 15.5 [mm]
- 4 20.0 [mm]



- A - 7 次の記述は、送信アンテナと給電線との整合がとれていない場合に起こる問題点と整合の方法について述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

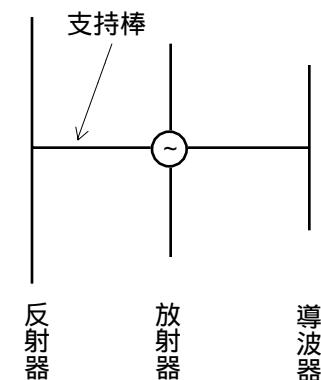
- (1) 伝送する電力が大きい場合には、定在波の A 波腹点において給電線の絶縁を破壊することがある。
- (2) 信号が給電線上を往復することになり、アンテナに送られる電力が B なる。
- (3) 整合にはコイルやコンデンサで構成する集中定数回路、または C 波長整合回路などによる分布定数回路などが用いられる。

	A	B	C
1 電圧	大きく	1/2	
2 電圧	小さく	1/4	
3 電流	小さく	1/2	
4 電流	大きく	1/4	

- A - 8 次の記述は、図に示す垂直偏波用ハムアンテナについて述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

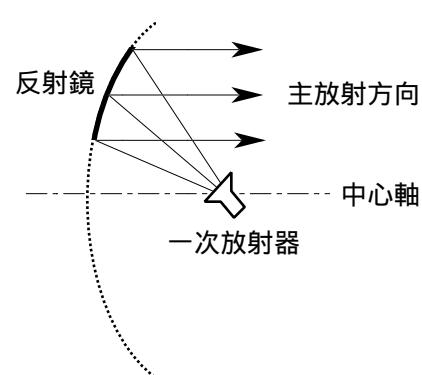
- (1) 放射器として A などが多く用いられ、その前後に導波器と反射器を配置した 3 素子構成が基本構成である。
- (2) 水平面内の指向性は、B で、導波器の素子の数を増やせば利得は大きくなり、ビーム幅は C なる。

	A	B	C
1 装荷ダイポールアンテナ	装荷ダイポールアンテナ	全方向性	狭く
2 装荷ダイポールアンテナ	装荷ダイポールアンテナ	単一指向性	広く
3 折返し半波長ダイポールアンテナ	折返し半波長ダイポールアンテナ	単一指向性	狭く
4 折返し半波長ダイポールアンテナ	折返し半波長ダイポールアンテナ	全方向性	広く



- A - 9 次の記述は、図に示すオフセットパラボラアンテナについて述べたものである。このうち誤っているものを下の番号から選べ。

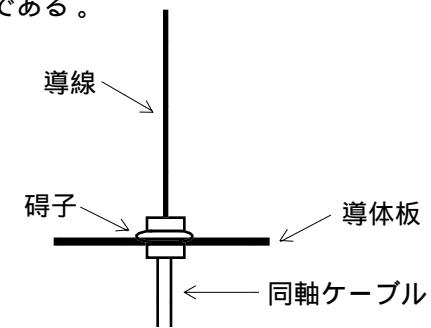
- 1 一般に、反射鏡として回転放物面の一部を用い、開口の外に一次放射器を置き、その軸が主放射方向と一定以上の角度になるようとする。
主放射方向に一次放射器のような給電装置やこれを支える支持柱などが無いため、サイドローブを低減できる。
衛星放送の受信用などに使う場合には、反射鏡をほぼ垂直に設置することができるため、鏡面に雨水が溜まることや雪が付着することが少なくなる。
円形パラボラアンテナに比べると、地上にある他のアンテナが放射する電波や大地が熱雑音として放射する電波を受信することが多い。



A - 10 次の記述は、図に示す $\frac{1}{4}$ 波長ホイップアンテナについて述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

- (1) 導体板によってできるイメージによって、□A□アンテナとほぼ同様な指向特性を示し、水平面内の指向性は□B□である。
- (2) 入力インピーダンスは半波長ダイポールアンテナの入力インピーダンスの約□C□倍である。

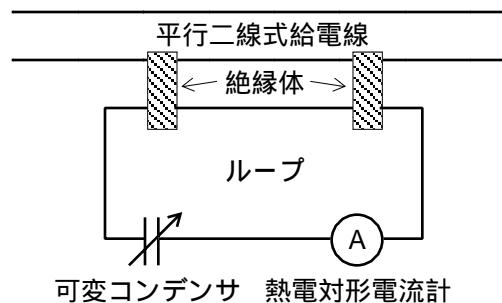
A	B	C
1 ループ	単一指向性	1 / 2
2 ループ	全方向性	2
3 $\frac{1}{4}$ 波長垂直接地	全方向性	1 / 2
4 $\frac{1}{4}$ 波長垂直接地	単一指向性	2



A - 11 次の記述は、図に示す電流分布測定器による電圧定在波比（VSWR）の測定について述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

- (1) 小さなループを絶縁体を用いて平行二線式給電線につり下げる構造で、□A□がループ面を横切ると、給電電流に比例した誘導電流が熱電対形電流計に指示される。
- (2) ループを左右に移動させたときの最大電流を I_{\max} [A]、最小電流を I_{\min} [A] とすると、電圧定在波比 S は、 $S = \boxed{B}$ で求められる。

A	B
1 磁束	$I_{\max} - I_{\min}$
2 磁束	I_{\max} / I_{\min}
3 電束	$I_{\max} - I_{\min}$
4 電束	I_{\max} / I_{\min}



A - 12 送信アンテナから一定強度の電波を放射し、十分離れた受信点で基準アンテナによりこの電波の受信有能電力を測定して 4×10^{-9} [W] を得た。次に、基準アンテナを被測定アンテナに取り替え、同じ条件で受信有能電力を測定して 8×10^{-8} [W] を得た。このときの基準アンテナに対する被測定アンテナの利得（真数）の値として、最も近いものを下の番号から選べ。

- 1 10 2 20 3 30 4 40

A - 13 次の記述は、アンテナ系の測定について述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

- (1) アンテナ利得の測定では、試験アンテナを送信アンテナとするか又は受信アンテナとするかの二つの方法がある。測定条件が同一の場合、二つの方法による測定結果は□A□。
- (2) 接地抵抗の測定では、成極作用（一定の直流電圧を加えたとき時間とともに電流が変化する現象）によって生ずる誤差を防ぐため、□B□ブリッジなどの測定器を用いる方法がある。
- (3) 給電回路の定在波の測定では、定在波測定器による方法や□C□を用いて給電回路中の進行波と反射波を測定し、その値を用いて計算で求める方法などがある。

A	B	C
1 同じになる	交流	方向性結合器
2 同じになる	直流	可変減衰器
3 異なる	直流	方向性結合器
4 異なる	交流	可変減衰器

A - 14 自由空間において、半波長ダイポールアンテナから送信電力 P [W] の電波を送信したとき、最大放射方向へ d [m] 離れた点 A における電界強度 E [V/m] であった。送信電力を θ [W] にしたとき、送信点から点 A と同一方向へ d [m] 離れた点 B における電界強度を表す式として、正しいものを下の番号から選べ。

- 1 E [V/m]
- 2 $1.5E$ [V/m]
- 3 $3E$ [V/m]
- 4 $4E$ [V/m]

A - 15 次の記述は、電離層(F層)伝搬におけるフェージングについて述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

- (1) 電離層における電波のエネルギーの吸収が電子密度の変化により時間的に変動するために生ずるフェージングを □A フェージングという。
- (2) 電離層の電子密度の変動の影響で、電離層で反射するときの □B の偏波面が時間的に変動するために生ずるフェージングを偏波性フェージングという。

- | A | B |
|-------|-----|
| 1 干渉性 | 反射波 |
| 2 干渉性 | 入射波 |
| 3 吸收性 | 入射波 |
| 4 吸收性 | 反射波 |

A - 16 次の記述は、超短波 (VHF) 帯の電波が見通し距離外まで伝搬する現象について述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

- (1) 大気や電離層に不均一性があると、電波は □A して見通し距離外まで伝搬することがある。
- (2) ラジオダクトが発生すると、電波がラジオダクト内を □B 見通し距離外まで伝搬することがある。
- (3) 伝搬路上に山岳があると、電波はその頂上で山岳 □C して見通し距離外まで伝搬することがある。

- | A | B | C |
|------|---------------|----|
| 1 散乱 | 反射や屈折を繰り返しながら | 回折 |
| 2 散乱 | 直進して | 反射 |
| 3 屈折 | 直進して | 回折 |
| 4 屈折 | 反射や屈折を繰り返しながら | 反射 |

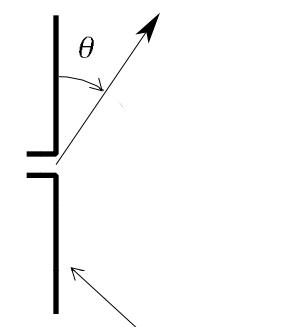
A - 17 次の記述は、半波長ダイポールアンテナの指向性パターンについて述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

- (1) 図に示すように、半波長ダイポールアンテナを垂直に置き、アンテナ素子と電波の放射方向との角度を θ [rad] とすれば、□A 面内の指向性係数 D は、次式で表されるものとする。

$$D = \frac{\cos\left(\frac{\pi}{2} \cos \theta\right)}{\sin \theta}$$

- (2) 半波長ダイポールアンテナの指向性パターンは、 $\theta = 0$ のときの D の値が □B 、 $\theta = \pi/2$ [rad] のときの D の値が □C となる □D である。

- | A | B | C | D |
|------|---|---|-----|
| 1 水平 | 0 | 1 | 円形 |
| 2 水平 | 1 | 0 | 8字形 |
| 3 垂直 | 1 | 0 | 円形 |
| 4 垂直 | 0 | 1 | 8字形 |



半波長ダイポールアンテナ

A - 18 次の記述は、同軸ケーブルについて述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

- (1) 一本の導体を中心にして円筒状に外部導体を配置し、両導体の間に □ A □ を詰め、外部導体の外側を絶縁体で覆ったものである。
- (2) 特性インピーダンスは、一般に平行二線式給電線に比べて □ B □ 。
- (3) 平行二線式給電線と比べると、外部への電波の放射が □ C □ 、また、外部からの影響を受けにくい。

	A	B	C
1	誘電体	小さい	少なく
2	誘電体	大きい	多く
3	磁性体	大きい	少なく
4	磁性体	小さい	多く

A - 19 次の記述は、船舶用レーダーのアンテナについて述べたものである。このうち誤っているものを下の番号から選べ。

- 1 方位分解能を上げるために、垂直面内のビーム幅を狭くする。
- 2 船舶のローリングやピッティングを考慮して、垂直面内のビーム幅を広くする。
- 3 レーダー画面上に偽像が現れないように、サイドロープができるだけ小さくする。
- 4 スロットアレ - アンテナが多用されている。

A - 20 次の記述は、短波(HF)帯の電離層伝搬における第 1 種減衰について述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。ただし、同じ記号の □ 内には、同じ字句が入るものとする。

- (1) 電波が、主に、D層及び □ A □ を突き抜けるときに受ける減衰である。
- (2) 電子密度が □ B □ ほど、また、電子が他の中性分子と衝突する回数(平均衝突回数)が □ C □ ほど、大きくなる。
- (3) 日中、地上から放射されて □ D □ で反射して地上に戻ってくる電波は、D層及び □ A □ を往復で 2 回以上突き抜けるから第 1 種減衰を 2 回以上受ける。

	A	B	C	D
1	F 層	大きい	少ない	E 層
2	F 層	小さい	多い	E 層
3	E 層	小さい	少ない	F 層
4	E 層	大きい	多い	F 層

B - 1 次の記述は、受信有能電力について述べたものである。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

図は、入力抵抗 r [] のアンテナを到来電波の中に置いたとき、アンテナに誘起する電圧 V [V] を入力抵抗 R [] の受信機に入力するときの等価回路である。

- (1) 等価回路を端子 ab で切り離したとき、アンテナ側の端子間に現れる電圧はに等しく、これを □ ア □ 電圧という。
- (2) 受信機とアンテナを接続したとき、回路に流れる電流は、次式で表される。

$$I = \boxed{イ} [A] \dots \dots$$

- (3) 受信機に入力される電力 P は、次式で表される。

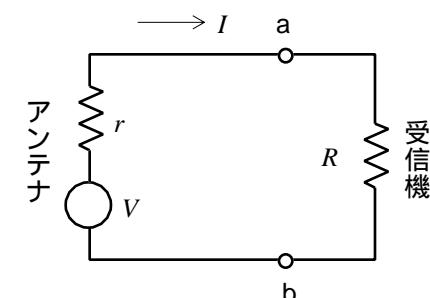
$$P = \boxed{ウ} [W] \dots \dots$$

- (4) この P を最大にするための R は、次式で与えられる。

$$R = \boxed{エ} [] \dots \dots$$

- (5) したがって、式 $P = \frac{V^2}{4R}$ を式 $R = \frac{V^2}{4P}$ へ代入すると、次式によって受信有能電力 P_m が求められる。

$$P_m = \boxed{オ} [W]$$



- | | | | | |
|--------|-------------------|------------------------------------|--------|---------------------|
| 1 受信有能 | 2 $\frac{V}{r+R}$ | 3 $\left(\frac{V}{r+R}\right)^2 r$ | 4 r | 5 $\frac{V^2}{2R}$ |
| 6 受信開放 | 7 $\frac{V}{2R}$ | 8 $\left(\frac{V}{r+R}\right)^2 R$ | 9 $2r$ | 10 $\frac{V^2}{4R}$ |

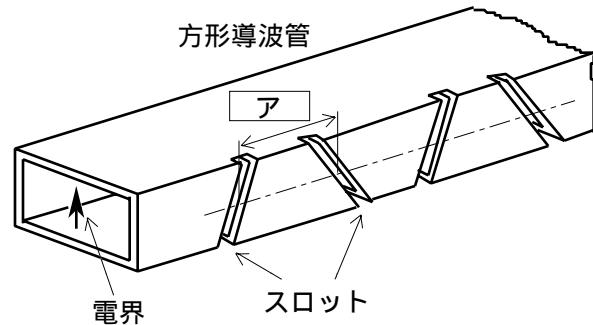
B - 2 次の記述は、給電線と整合回路などについて述べたものである。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

- (1) 給電線には、平衡形と不平衡形があり、□ア□は不平衡形である。
- (2) また、アンテナにも平衡形と不平衡形があり、平衡形のアンテナに不平衡形給電線で給電するようになると、□イ□が流れないようにするために用いられるのが平衡 - 不平衡変換器であり、□ウ□ともいわれる。
- (3) インピーダンス整合回路は、給電線の特性インピーダンスとアンテナの□エ□が異なるとき、給電線とアンテナの間に挿入し、□オ□波が生じないようにするものである。

1 同軸ケーブル	2 平衡電流	3 バラン	4 損失抵抗	5 反射
6 平行二線式給電線	7 漏れ電流	8 サーキュレータ	9 入力インピーダンス	10 進行

B - 3 次の記述は、スロットアレーランテナについて述べたものである。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。ただし、同じ記号の□内には、同じ字句が入るものとする。また、方形導波管はH面が大地に平行に置かれており、管内を伝搬するTE₁₀モードの電磁波の管内波長をλ_g[m]とする。

- (1) 図に示すように、方形導波管の短辺の側面のスロットの間隔は、一般に□ア□[m]である。
- (2) 隣り合うスロットから放射される電波の電界の水平成分は同位相となり、垂直成分は□イ□なるので、□ウ□の電波を放射する。
- (3) 一般に、□エ□内のビーム幅は狭く、サイドロープは□オ□。

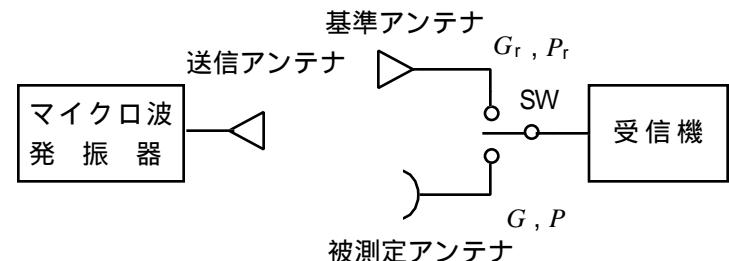


1 λ _g /2	2 同位相	3 垂直偏波	4 垂直面	5 小さい
6 λ _g /4	7 逆位相	8 水平偏波	9 水平面	10 大きい

B - 4 次の記述は、マイクロ波アンテナの利得を比較法により屋外で測定する方法及びその注意事項について述べたものである。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

- (1) 送受信アンテナ間には遮へい物が無く、周囲に電波を反射する物が無い開けた場所を選ぶ。大地反射波があるときは、その影響を少なくするようにアンテナを十分□ア□場所に設置するか、反射点に□イ□などの反射防止板を設ける。
- (2) 送受信アンテナ間の距離は、波長に比べてアンテナの開口面の寸法が□ウ□なるほど、大きくする必要がある。
- (3) 図に示す構成により、送信アンテナから一定周波数、一定電力で送信した電波を切替スイッチSWで基準アンテナ又は被測定アンテナに切替えて受信し、それぞれの受信電力を測定する。一般に基準アンテナには、□エ□アンテナを用いる。
- (4) 利得がG_r[dB]の基準アンテナで受信した受信電力がP_r[dBm]であり、被測定アンテナで受信した受信電力がP[dBm]であるとき、被測定アンテナの利得Gは、次式で求められる。

$$G = \boxed{\text{オ}} \text{ [dB]}$$



1 低い	2 アクリル板	3 大きく	4 ホーン	5 P + P_r + G_r
6 高い	7 金属板	8 小さく	9 ループ	10 P - P_r + G_r

B - 5 次の記述は、電波が伝搬するときの性質について述べたものである。このうち正しいものを1、誤っているものを2として解答せよ。

- ア 電波は、異なる媒質の境界で反射したり、屈折したりする。
- イ 電波は、ナイフエッジ状の山岳があると回折して陰に入り込む。
- ウ 位相の異なった電波が合成されると、干渉を起こして、互いに強め合ったり弱め合ったりする。
- エ 電波の電力束密度は、自由空間中では、距離に反比例して減少する。
- オ 電波が降雨域を通過するとき、減衰を受けることはあるが位相変化を受けることはない。